

令和7年度 学校評価 進修小学校パワーアッププラン

1 目標・方針

中期的な学校運営の 目標・方針	『学校教育目標』 ふるさとを誇りに思い 人とかがわりながら 自ら考え行動する児童の育成 ～自律・挑戦・つながり～
本年度の重点目標	「めざす児童像」 ○自律する子 自分で考え行動する子 自らの学びを振り返れる子 ○挑戦する子 失敗を恐れず挑戦する子 ねばり強く取り組む子 ○つながる子 人と関わりながら課題解決できる子 相手の気持ちを想像する子

2 自己評価（達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善）

領域	観点	評価項目	達成状況	学校の取組状況と改善の方策
学校運営	生活指導	自分から進んであいさつする児童を育てる。 学校に行くのが楽しいと思える学校づくりをする。	A	自分からあいさつしている児童は69%と昨年より6.3%減少している。今年度は児童中心の挨拶運動などができなかつたり、あいさつを意識させる取り組みが少なかつたりした。来年度は、啓発と挨拶運動を積極的に行っていく。 学校に行くのが楽しいと感じる児童は、85.4%で2.6%増加している。さらに、保護者と情報共有しながら、児童の意見を反映させながら、行事や授業づくりの改善工夫をしていく。
	保護者地域との連携	家庭、地域と連携を図り、家庭、地域の教育力を活用している。積極的な情報発信に努めている。		82.1%の児童が地域の人と一緒に学ぶ楽しさを感じ、ふるさとの良さを実感している。昨年度よりも7.1%減少しているが、ゲストティーチャーとしてたくさんの地域、保護者の方が協力的に児童と関わり活動してくださっている。保護者の意識は昨年度より25.7%増加し、70.5%の方が子どもたちが地域の方と学習したと感じている。 今後も保護者、地域、学校が一体となって地域と共にある学校づくりに取り組み、ふるさとを誇りに思える児童を育てていきたい
教育課程	学習指導	学びに向かう力を高める。	B	目標をもって最後まであきらめず取り組むと解答した児童が79.8%で、昨年より1.9%減少した。めあては意識しているが取り組む姿勢から粘り強さは少ないと感じる。スモールステップで達成感を味わわせ最後まで取り組めるように指導していく。
	授業方法の改善	主体的に学び、自分の考えを伝えたり友だちと協働して学べたりするような授業づくりを工夫している。		友だちの意見を聞いたり考えを伝えたりするなど友だちと学ぶことが楽しいと答えた児童が90.4%で昨年度より3.3%増加している。日頃から児童を対話でつなげる意識を持った授業づくりをしていることと、自由進度学習に全学年取り組み、自己調整しながら、友だちと協働して課題解決することで楽しく学びに向っている児童の割合が増加したと感じる。引き続き主体的、対話的で深い学びの実現につながる授業づくりに取り組んでいく。
課題教育	特別支援教育	個性を尊重し、お互いの良さを認め合える子を育てる。	A	友だちのよさを見つけ、相手の気持ちを考えた行動、言葉遣いができていると答えた児童が85.7%で昨年度より0.3%減少しているが、保護者は子どもが友だちを大切にしている気持ちが育っていると97.4%感じている。保護者が家庭で友だちを思いやる気持ちや互いの違いを認め合う姿を見せてくれていると感じる。

3 学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> ・学校が掲げる「自律・挑戦・つながり」という目標について、今後社会で必要とされる重要なスキルであり、これらを通じて人間らしさを身につけてほしいと高く評価された。 ・児童が自分から挨拶ができていない点について、季節的な要因も考えられるが全体的に声が小さいと感じる。地域の行事には子どもが多く参加しているので、顔見知りを増やし信頼関係を築くことで、自然な挨拶の定着につながると期待している。 ・縦割り班活動の見守りをしていたとき、児童同士は仲がよいと感じた。児童の主体性を育てる際に、すべて任せるのではなく、教師が指導するところのバランスが必要だと感じた。
--

・粘り強く取り組む姿勢の減少について、ネット検索など安易に答えを求めてしまう傾向について心配している。単なる正解を求めるのではなく、過程や解釈を大切にす指導をお願いしたい。

・保護者のアンケートで子どもが地域の方と学習していることを実感している答えの方が25.7%も増加したということは、保護者の教育活動への参加も増えたが、子どもが学習内容を家庭で伝えていることがわかる。今後も地域と連携した取り組みを期待している。

4 次年度の改善の方向性

来年度は、自律を育てる土台として「安心・挑戦・つながり」を目標にして次の3つの柱で推進していく。

・「安心」と「挑戦」を両立させる学校文化の醸成

すべての児童に「安心できる居場所」と「活躍の場」を保障する。失敗を成長のチャンスと捉え、「挑戦と失敗が肯定される学級風土」を築くことで子どもたちが自ら考え、判断し行動する「自律」の基礎を固めていく。

・主体性を引き出す活動と多面的な支援体制

児童による「あいさつ運動」や「縦割り班活動」を活性化し、自分たちで学校を創り上げる主体性を育てる。特に課題となっている「粘り強さ」を養うために、授業や行事の様々な場面で「自己選択・自己決定」の場を設け、自らの学びや行動を振り返る力を高める。また、チーム担任制や教科担任制を充実させることで教職員が子どもたちを多面的に見取り、一人一人の小さな変化や成長を逃さず支援する体制を強化する。

・地域・家庭との「つながり」による豊かな学び

「地域と共にある学校」「ふるさと進修」への愛着と誇りを持てるようにする。

保護者や地域との信頼関係(つながり)を深めることが、子どもたちの社会性を育みよりよい成長へとつながる。

「安心があるから挑戦でき、挑戦があるから自律が育ち、つながりがあるから成長できる」このサイクルを回すことで、子どもたちが自律し、よりよく生きようとする学校を目指していく。

令和 8年 3月 6日

学校名 丹波市立進修小学校

校長名 松田 亜矢